

令和7年度 徳島県立名西高等学校(全日制課程) 学校評価 総括評価表

重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画		自己評価		委員評価	今後の方針	
			評価指標	評価指標の達成度	総合評価				
学習指導の充実	自分で考え、自分の意見を持ち、自分の言葉で表現できる生徒の育成	企画課 教務課	① 授業評価アンケートでの、ルーブリックの資質・能力について、自分自身の向上を意識できた生徒の割合90%以上。(R6:95.3%)	① 「多いに向上できた」と「まずまず向上できた」を合わせて86.0%であった。	総合評価 B	(評定)	学校運営協議会に3回参加し授業を参観する中で、落ち着いた環境のもと、生徒が自己実現に向けて努力している姿が印象的であった。さまざまな授業を通して普段の生徒の様子を知ることができ、生徒がいきいきと主体的に学習へ取り組んでいる様子が見えた。ICTを活用した授業も多く、教員の熱心な指導とともに、単元テストの導入も学習内容の定着に有効な取組であると感じた。 また、普通科の生徒も芸術の専門的な授業を受けられる点において、名西高校芸術科の存在意義は大きい。今後も小規模校の強みである教員と生徒の距離の近さを生かし、学ぶ意欲を高めた生徒を支援しながら、選択肢の多い魅力ある学校づくりを期待したい。	昨年度から導入している単元テストや定期考査の在り方については、今後も授業改善教職員研修会において成果と課題を共有し、学習評価と授業改善を一体的に見直しながら、より効果的な指導方法の確立を目指していく。 また、多様な学習ニーズをもつ生徒一人ひとりに対応するため、特別支援教育の充実を図るとともに、学校図書館の積極的な活用による読解力・思考力の育成や、タブレット端末の効果的な活用による個別最適な学びと協働的な学びの推進に取り組む。 これらの取組を通して、生徒が主体的に学びに向き合い、「自分で考え、自分の意見を持ち、自分の言葉で表現できる生徒」の育成を目指し、学びの質の向上と教育活動のさらなる充実を図っていききたい。	
			② 授業評価アンケートでの、生徒の授業満足度の肯定的回答90%以上。(R6:94%)	② 「授業が充実しているか」に対する肯定的回答は90.6%であり、授業内容への一定の評価は得られた。					(所見)
			③ 試験期間中の平均家庭学習時間2時間以上の者を50%以上、ゼロ時間の者を0%。(R6:2時間以上53.9%、ゼロ時間2.0%)	③ 学習時間2時間以上の者の割合は37.6%、学習時間ゼロ時間の者の割合は2.7%であった。					
			④ 特別支援教育の視点で、生徒理解に努め、一人一人の特性に応じた指導を充実させる。	④ 生徒の特性に応じた配慮事項を共通理解したうえで、授業や生徒指導に生かすことができるよう、教員間の連携に努めた。					
			⑤ 一人あたりの図書館利用回数年間10回以上。(R6:9回)	⑤ 一人あたりの利用回数は、8.5回であった。利用回数はやや減少したものの、一人あたりの貸出冊数は6冊から7冊に増加した。					
		企画課	① 教職員研修、各教科での授業研究会を実施し、資質能力育成のための授業改善を進める。	① 授業改善教職員研修会を計6回行い、全体での共通理解や教科間の情報交換などを行った。					
		教務課	② 教科会等で授業研究を行い、わかりやすい授業の実施に努める。	② 企画課とも連携し、各教科で教科会を開くなどして計画的に研究授業の計画・実施・振り返りを行った。					
			③ 学習時間調査を実施し、試験に向けての目標設定と意識づけを行い家庭学習時間ゼロをなくす。	③ 考査時間割発表日に学習時間表を配付、最終日に学習時間調査を実施した。担任がチェックと状況把握を行い指導に役立てた。					
		保健厚生課	④ 実態調査により生徒の状況を把握し、ケース会議等により支援内容の充実を図る。	④ 生徒の実態調査を基に、情報共有を行った。また、必要に応じて、巡回相談員による助言をいただいたり、学年会や教科担任会などのケース会を行ったりした。					
		総務課	⑤ 名高ライブラリ発行、出張図書室の充実、教科・科目と連携した図書の推薦により、意欲の喚起を図る。	⑤ 名高ライブラリの発行、出張図書室の充実に加え、授業や探究学習において図書室の活用が多くなされた。					

重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画		自己評価		委員評価	今後の方針
			評価指標	活動計画	評価指標の達成度	総合評価		
生徒指導の充実	基本的生活習慣の確立と安心・安全に向けた意識を高める。	生徒指導課各学年主任	① 遅刻者数を年間500人以下にする。(R6:560人)	① 立哨指導や遅刻カードによる指導、また毎朝の声かけ指導などの取組を行ったが、遅刻者数は636名(1月末)で、昨年度の同時期から大きく増加してしまった。	(評定) B	現代社会はやや過保護な側面もあり、生徒が自立する機会が少なくなっていると感じる。社会に出れば自ら考え行動し、責任を持って働くことが求められるため、そのギャップを埋める自立を促す教育が必要である。今後も基本的生活習慣の確立への意識を高めるとともに、生徒会や名高パトロール隊などを中心に、生徒が主体的に活動できる環境づくりを進めてほしい。	生徒の主体性を育みながら、基本的生活習慣の確立と安心・安全に向けた意識を高めると共に、生徒生活アンケート等を活用しながら、校則見直しを機として規範意識の育成を図る。声かけ指導などにより、生徒一人一人について把握し、必要な情報が教員間で共有が図れる体制をより一層推進する。	
			② 交通事故防止と交通マナー向上の指導を徹底させ、登下校における交通事故を年間5件以内にする。(R6:5件)					② 登下校中の接触事故は4件であった。3件は命に関わるような事故ではなく、軽傷の事故であった。1件は頭蓋骨骨折でしばらく入院していたが、現在特に問題なく学校生活を送っている。
		生徒指導課各学年主任	① 登校指導や「遅刻ゼロの日」、「考査時の5分前登校」の取組みを充実させる。また、遅刻カードで遅刻数や理由を確認し、個別に指導する。声かけ指導も毎朝実施する。	① 生徒に遅刻カードを記入させ、捺印の際に遅刻数や理由を確認し、個別に指導を行った。考査時は5分前登校も実施した。毎朝の立哨指導での声かけも行った。	総合評価 B			
			② 登校時の立哨指導(毎日)、街頭指導(月1回)、交通安全街頭キャンペーン(年2回)、車体検査と通学方法別集会(年3回)、生活安全委員会による挨拶運動(月1回)、生徒会による挨拶運動(週1回)の実施。	② 登校時の教員による立哨指導は複数名で毎日実施し、毎月1回、学校安全の日立哨指導を実施した。名西署と連携し、交通キャンペーン(年2回)も実施した。車体検査と通学方法別集会、生活安全委員会による挨拶運動等、すべて予定回数実施できた。また、3年生に対しては自動車運転免許取得説明会も開催した。		いじめによる特別指導は0件であったことは高く評価できる。中学校では読書率の低下が課題であり、スマートフォンの影響も考えられる。今後も人権意識の向上とSNS等への不適切投稿防止について継続した指導をお願いしたい。また、いじめ防止委員会(ハートフル委員会)の取組は、生徒が主体的にいじめ問題と向き合う機会となっており、今後も継続を期待したい。		

重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画		自己評価		委員評価	今後の方針
			評価指標	活動計画	評価指標の達成度	総合評価		
人権教育の充実	自他を大切にす る心や態度の育 成	人権教育課	① 3年生対象の「人権に関する意識調査」で、人権課題に取り組む意欲を示す回答を98%以上にする。(R6:98%)	① 「意欲的に取り組んだ」「ある程度取り組んだ」合わせて97%であり目標をわずかに下回った。「意欲的に取り組んだ」生徒の割合が昨年度より減少しているため、テーマ設定や学習内容の見直しと改善を図る。	(評定) B	いじめによる特別指導が0件であったことは高く評価できる。中学校では読書率の低下が課題であり、スマートフォンの影響も考えられる。今後も人権意識の向上とSNS等への不適切投稿防止について継続した指導をお願いしたい。また、いじめ防止委員会(ハートフル委員会)の取組は、生徒が主体的にいじめ問題と向き合う機会となっており、今後も継続を期待したい。	面談やカウンセリング、人権に関する意識調査やいじめに関するアンケートにより生徒の実態把握に努め、様々な機会を捉えて「自他を大切にす心や態度の育成」を図る。	
			② 学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめの未然防止に努め、いじめによる特別指導を0件にする。(R6:0件)					② いじめによる特別指導は0件だった。いじめ防止委員会(ハートフル委員会)のメンバーが「とくしまいじめ問題子どもサミット2025」に参加する等、主体的にいじめと向き合い行動できる生徒が育ちつつある。
		人権教育課	① 人権学習ホームルーム活動や人権映画鑑賞会・講演会等を行うことにより、多様性や人権を尊重し、いじめ・差別を許さない意識や態度を育てる。	① 人権学習ホームルーム活動を5回実施。人権映画鑑賞会は、家族愛や、困難に負けない強さについて考える時間となった。人権教育講演会は、言葉の力を養うことが、いじめ・差別に立ち向かう力になることを理解する機会となった。	総合評価 B			
			② いじめに関するアンケートを年2回実施し、早期発見に努める。また、いじめは絶対に許さないという姿勢を全校集会等で明確にし、生徒が相談しやすい環境をつくる。	② アンケート調査(年2回)や個別面談などの取組を行うことで生徒の悩みや対人関係の状況を把握し、いじめ未然防止に努めた。				いじめによる特別指導は0件であったことは高く評価できる。中学校では読書率の低下が課題であり、スマートフォンの影響も考えられる。今後も人権意識の向上とSNS等への不適切投稿防止について継続した指導をお願いしたい。また、いじめ防止委員会(ハートフル委員会)の取組は、生徒が主体的にいじめ問題と向き合う機会となっており、今後も継続を期待したい。

重点課題	重点目標	担当	評価指標と活動計画		自己評価		委員評価	今後の方針
			評価指標	評価指標の達成度	総合評価			
キャリア教育の充実	社会的自立のために必要な資質・能力の育成	進路指導課	① 最終進路先に満足する生徒の割合が90%以上、本校の進路指導に満足する生徒の割合が90%以上にする。(R6: 98.6%,94.9%)	① 最終進路先に満足した生徒の割合は89.3%、本校の進路指導に満足した生徒の割合は92.5%であった。高い進路目標を持つ生徒が多い学年であったが、十分な成果をあげられなかった面がある。	(評定) B (所見) 進路ガイダンスや進路講演会、志望理由書に関する取組、就職希望者への職場見学、「総合的な探究の時間」での取組等を充実させることができ、様々な進路選択をすすめる生徒がいる中で「社会的自立のために必要な資質・能力の育成」に向けた指導を行うことができた。さらに情報提供を行い、自発的に学習活動を行い、積極的に自分の進路選択を早期から考える生徒の育成について働きかけていきたい。			
			② 各学年での志望理由書に関する取組に対して、アンケートによる生徒の満足度を85%以上にする。(R6: 92.2%)	② 生徒の満足度は91.3%であった。志望理由書模試や進路講演会などを行い、自らの進路に真摯に向き合える取り組みを行った。				
			③ 早い段階から、自らの進路に向けて主体的に取り組む高い意識を持った、5%程度の生徒集団をつくる。	③ 「入試問題研究部」への参加者は2年生6名、1年生4名で、4.9%であった。また、3年生で共通テスト後も登校して学習に取り組む生徒が例年より多い7名おり、意欲的な姿勢が見られた。				
		企画課	④ 1年時: エシカル消費についての課題を見つけられている。2年時: グループ研究を行い、発表ができる。3年時: 個別研究を行いレポート作成ができる。(R6: 各学年における目標を達成)	④ 1年時は外部講師によるエシカル消費基礎講座を9講座開講した。そこで得た知識や課題をもとに、今後の探究活動の計画を立てた。2年時はグループでの探究活動を行った。3年時は、個別探究を行い、レポート作成とスライドによる発表を行った。				
			進路指導課	① 生徒の進路相談に随時応じ、丁寧な進路指導を行う。		① 進学指導室や就職指導室などを活用し、適宜生徒からの話をしっかり聞きながら進路相談に応じた。		
				② 志望理由書に関する取組を2・3学年の年間計画に位置づける。各ホームルームでの事前指導、講演会を経て、志望理由書模試を実施する。		② 志望理由書模試の初回を2学年3学期に、リライトを3学年1学期に実施した。学習教材「マイノート」を用いての事前指導、外部講師を招いての講演会(3学年1学期)を行った。		
		③ 部活動の入試問題研究部として、学業に関して組織的・定期的な活動を行い、切磋琢磨できる集団を育成する。		③ 週3回の継続的な活動を行い、主体的に取り組むことができた。進路実現に向けた意識付けにつながっている。				
		企画課	④ 「エシカル消費基礎講座」による知識の習得、グループによる探究活動、発表、レポート作成などの活動をより一層充実させる。	④ 全学年を通じて、情報収集や発表資料の作成の際には、1人1台端末を活用した。2年時は全グループに校外でのフィールドワークを課したが、それは発表内容に厚みを与えた。				

重点課題	重点目標	主担当	評価指標と活動計画		自己評価		委員評価	今後の方針
			評価指標	評価指標の達成度	総合評価			
文化芸術活動の推進	芸術科の魅力の積極的発信と生徒の国際的感覚・視野の醸成	芸術科	① 「名西高校フェスティバル」の入場者数を1,800名以上にする。(R6:2,116名)	① 第5回名西高校フェスティバルの来場者数は1862名だった。	(評定) A	(所見) 効果的な広報により「芸術科の魅力の積極的発信」を行うことができた。名高フェスティバルでは、あわぎんホール利用により、より多くの観客を得ることができ、体験学習等でもフェスティバルを見て希望してくれる生徒も増えている。昨年度末に台湾の羅東高級中学から本校を訪れ、たくさんの本校生がバディーとして交流した。また今年度3月に、事前研修を重ねた21名の生徒が、羅東高級中学を訪問する予定である。この姉妹校交流は、国境を越えた友情を育み交流を深めるとともに、現地での体験を通して台湾の文化や歴史に触れ、国際感覚を養うことにつながる重要な活動である。	名高フェスティバルでは、芸術科の高い表現力を多くの来場者へ発信することができ、大変意義深い取組であった。また、芸術科だけでなく普通科の生徒も演奏や作品展示に参加しており、普通科の魅力発信にもつながっていた点が印象的である。芸術科の多様な活動や国際交流など、家庭教育では得がたい貴重な体験の機会が提供されていることは、本校の大きな特色であり強みであると感じた。今後も名西高校の魅力ある教育活動をホームページやSNS等を活用して積極的に発信し、地域や中学生、保護者に広く周知していくことを期待したい。	本校の魅力をより効果的に発信するため、広報体制の見直しを行い、組織的かつ継続的な情報発信の充実に取り組んでいく。特にWebページの定期的な更新を重視し、生徒の活動や成果を積極的に発信することで、学校の教育活動への理解促進と魅力発信の強化を図る。また、芸術科はもちろん普通科の生徒の活躍や日常の学校生活についても発信内容を充実させ、名西高校全体の魅力が伝わる広報を推進していく。名西高校フェスティバルについては、生徒の学びの成果を地域に直接発信できる重要な機会と位置付け、来場者数の増加に向けた効果的な広報の在り方を検討するとともに、内容のさらなる充実を図り、地域に開かれた学校づくりを一層推進していく。
			② 芸術科の取り組みを本校Webページで発信し、年間60回以上更新する。(R6:39回)	② 芸術科の行事や活動を78回Webで発信した。				
			③ 高文祭で全国大会に3部以上、各種大会・コンクールでは全国規模の入賞・入選数150以上にする。(R6:4部門、入賞・入選251名、2団体)	③ 箏曲、合唱、美術、書道各部門が全国高等学校総合文化祭に出場した。合奏コンクール全国大会、声楽アンサンブルコンテストで全国大会出場、個人でも全国3位の成績を取った生徒がいる。美術では全国規模の大会において10点が入賞する成績を取った。書道では167点が全国規模の大会で入賞・入選を果たした。				
		企画課	④ 外国の文化・慣習等に興味・関心を持ち、国際交流への意識を高めた生徒の割合80%以上。(R6:93.8%)	④ 「国際交流への意識が高まったか」という質問に、「そう思う」「ややそう思う」と肯定的に答えた生徒の割合は86%であった。				
		芸術科	活動計画	① 内容を充実させ、各種メディア、オープンスクール等本校主催行事、本校Webページなど、多面的な広報活動を展開する。	活動計画の実施状況	① オープンスクール、芸術科体験入学、芸術科説明会を実施した。また、名西高校フェスティバルやミニコンサートや地域のイベントにおいて芸術科の取組や魅力を伝えた。		
			② コンクール等での成果や生徒作品、芸術科行事や日々の活動の様子を、積極的に情報発信する。	② コンクールや芸術科の活動をホームページに掲載し、芸術科の行事や取組を案内、広報した。				
			③ 作品の応募やコンクールへの出場、大会参加を積極的に行い、粘り強く指導することにより、生徒の資質能力を伸ばす。	③ 積極的にコンクールに出場したり、作品応募することで、常に目標を持たせながら個々に応じた指導を粘り強く行うことができた。				
		企画課	④ 生徒の国際理解を深めるために、講演会等の開催や海外姉妹校との交流活動を行う。	④ 昨年度2月に、台湾の姉妹校である羅東高級中学から26名の生徒が本校を訪れ、たくさんの本校生がバディーとして交流した。今年度3月11日には、事前研修を重ねた21名の生徒が、羅東高級中学を訪れる予定である。広く世界とのつながりを意識することができた。				

重点課題	重点目標	担当	評価指標と活動計画		自己評価		委員評価	今後の方針
			評価指標	評価指標の達成度	総合評価			
開かれた学校づくりの推進	地域社会への積極的魅力発信、生徒の参画、地域貢献の充実	総務課	① P T A や同窓会と連携をとりながら、名西高校の歴史や魅力を効果的に発信し広報できるようにする。	① 文化祭等の活動報告をホームページにアップする等、学校の教育活動や生徒の主体的な取組の様子を広く周知できるよう努めた。	(評定) B	(所見) 「名高パトロール隊」や地元警察署と連携した交通安全キャンペーン、地元中学への「サイバーセキュリティ教室」、芸術科による地域での活動など、様々な形で学生の作品や活動について積極的な発信を行った。「サイバーセキュリティ教室」については、今年度、本校生に向けても実施し、サイバー犯罪防止に向けた幅広い活動が実施できた。またエシカル子ども食堂へ参加など、生徒の主体的なボランティア活動への参加も増え、地域貢献活動の充実にもつながった。音楽コースでは、今年度、月に一回「わくわくコンサート」を実施し、地域の方に広く活動をアピールすることができた。また、美術コースでの新しい取組として、太陽石油からの依頼でラッピングバスのデザインに1年生が挑戦した。この企画で完成したラッピングバスが実際に徳島県内を走ることで、広く県内に名西高校についてアピールできると考えられる。また書道コースにおいても、石井町公民館高川原分館をはじめ、様々な場所で作品展示を行い、積極的な地域貢献活動を実施することができた。	高校の魅力化に向けた取組や地域貢献活動が積極的に行われており、地域に根ざした魅力ある学校づくりが推進されている点を高く評価したい。特に、生徒が主体的に参加する地域活動や社会貢献の取組は、学校の特色として大きな価値を有している。今後は、これらの魅力を地元中学生にも対してより積極的に発信するとともに、進路選択に大きな影響を与える体験入学や部活動体験の機会をさらに充実させ、学校理解の一層の促進を期待する。また、地域との連携を大切にし、教育活動の成果を地域へ発信・還元する取組の継続を望みたい。さらに、芸術科の活動はもちろん、名高パトロール隊やサイバーセキュリティ教室は、地域貢献と生徒の主体的な学びを両立する優れた取組である。SNSトラブルが増加する現状を踏まえ、今後も内容の充実を図りながら継続的に実施し、地域に信頼される学校づくりの推進につなげていただきたい。	中学校への出前授業や地元イベントへの参加など、地域との交流活動に継続して取り組むことで、生徒の主体性を育むとともに、社会への積極的な参加や地域貢献について考える機会の充実を図っていく。また、これらの活動を通して名西高校の魅力を広く発信し、中学生が本校を進路選択の一つとして考える契機となるよう努めていきたい。さらに、芸術科3コースそれぞれの特色ある取組を一層充実させ、本校ならではの教育活動を推進し、名西高校にしかできない魅力ある学校づくりを目指していく。
		生徒指導課	② 「名高パトロール隊」の活動を年間30回以上実施する。(R6:31回)	② 全ての運動部員と生徒会役員が「名高パトロール隊」に所属し、挨拶運動や町内のパトロールなどのべ31回、意欲的に活動した。				
			③ 交通安全キャンペーンを年2回以上実施し、交通マナーの向上と地域の交通安全に貢献する。(R6:2回)	③ 春と秋の2回、全国交通安全運動期間に名西署等と連携して、街頭キャンペーンを実施することができた。				
		企画課	④ 自主的にボランティア活動を行った生徒が、全校生徒の60%以上。(R6:校内で企画したものへの参加46.6%)	④ 自主的にボランティア活動を行った生徒は全校生徒の44.6%だった。				
		芸術科	⑤ 中学生を対象とした行事や地域における芸術活動の充実を図る。(R6:オープンスクール121名、体験入学251名、芸術科進学説明会106名)	⑤ 中学生、保護者、中学校教職員を対象とした行事の参加者数は、オープンスクール199名、体験入学231名、芸術科説明会は73名だった。				
		総務課	活動計画 ① 藤花同窓会と連携して、できるだけ多くの会員に広報を行い、活動の充実を図る。	活動計画の実施状況 ① 藤花同窓会役員会や総会、懇親会において、その都度生徒たちの活躍を報告した。				
		生徒指導課	② 「名高パトロール隊」を編成し、地域社会や警察と連携しての、清掃活動や防犯キャンペーン、挨拶運動、「サイバーモデル校」としての地元中学校での出前講義を実施する。	② 清掃活動や防犯キャンペーン、挨拶運動などを実施した。地元3中学校での出前授業「サイバーセキュリティ教室」も生徒主体で実施することができた。またサイバー犯罪啓発を促す、クリアファイルのデザインを美術コース2年生が担当した。				
			③ 名西署と連携を図り、生活安全委員会が交通マナーアップのためのキャンペーンを実施する。	③ 秋の交通安全運動では、美術部が名西署、交通安全協会と連携して制作したのぼり旗を用い、キャンペーンを実施した。				
企画課	④ 参加方法等を掲載したリーフレットを配布し、生徒がより参加しやすいように工夫するとともに、個別の声かけをする。	④ 本校関連のボランティア活動の概要をまとめた表の配布や、各ホームルームでの参加の呼びかけを組織的に行った。						
芸術科	⑤ 地域での文化祭や展覧会等の行事において、生徒の作品制作や演奏会への協力を図る。	⑤ 音楽コースでは、わくわくコンサート、卒業演奏会、石井町総ぐるみ(音楽合唱・書道作品展示)、石井町ウィンターイルミネーション(美術・書道はマルシェに参加)などの地域のイベントや行事に参加した。また美術コースでは、高川原小学校プール壁画制作を実施したり、今年度は新しく太陽石油からの依頼でラッピングバスのデザインに挑戦した。書道コースにおいては、石井町公民館高川原分館や石井町ボランティアフェスティバルにおいて作品を展示するなど、各コースが積極的な地域貢献活動を実施した。						